【 67 】

氏名	**藤　井　剛**
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第563号
学位授与の日付	昭和48年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**陣痛の制御とそれに伴う母児への影響に関する研究**
論文審査委員	教授 木本　浩　教授 中山　沃　教授 西田　勇

学位論文内容の要旨

妊娠39週以後で陣痛が自然発来して入院した産婦100名を各々 (1) isoxsuprine 2.5mg/hr 点滴静注群，(2) isoxsuprine 11.25mg/hr 点滴静注群，(3) 塩酸 chlorpromazine 25mg 筋注群，(4) 塩酸 pethidine 100mg 静注群，(5) 無処置対照群の5群，各々20名にわけ，投与前後4時間にわたる陣痛内計測値，Friedman 分娩曲線，母体血圧，母児心搏数等を連続測定し，又分娩時母児動脈血呼吸ガス値，出血量等を測定した。又帝王切開時妊娠末期子宮筋を採取して in vitro 実験を行なった。その結果，

1）まず in vitro では isox. と peth. では 5×10^{-5}g/ml，ch.p. では 10^{-5}g/ml 以上の濃度にならねば子宮筋収縮を抑制出来ず，又 isox. ではまず収縮時間が，ch.p. 及び peth. ではまず強さが減少して次第に子宮収縮の抑制がおこる事を見出した。

2）次に臨床実験においては isox. の 11.25mg/hr の静注はまず陣痛周期が，ついで子宮内圧が減弱し，Montevideo 単位は著明に減少する。薬剤効果の個体差は大きい。

3）ch.p. 投与群では陣痛周期や発作時間はほとんど変らないが，子宮内圧が減少して，Montevideo 単位が漸減した。

4）peth. 投与群では子宮内圧は次第に減少して，陣痛周期は延長し，発作時間は短縮したが，前の2者程著明ではなかった。

5）薬剤投与で母児には何の副作用をも認めず，陣痛抑制群に児の oxygenation はかえって亢進した。しかし peth. 投与群では児に軽い呼吸性アシドーシスを見た。

6）以上の薬剤はいずれも陣痛抑制効果がみられたが，子宮口開大度が3.5cm 以下児頭の station が－3以下のものでは特に著明であった。又各群共母体に和痛効果が認められた。

7）陣痛の制御の臨床的意義は，今後，正しく評価されてゆくものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は，現在，臨床産科学の課題である安全分娩のための陣痛抑制に関し，実験的ならびに臨床的に研究したものである。従来十分研究されていなかった妊娠末期の妊婦に対する陣痛抑制剤の臨床的適応について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は，医学博士の学位を得る資格があると認める。